九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日本と中国の大学生の精神的健康度の比較「いきいき」健康調査表を用いて

山田, 裕章
Institute of Health Science Kyushu University

冷川, 昭子
Institute of Health Science Kyushu University

峰松, 修
Institute of Health Science Kyushu University

https://doi.org/10.15017/614

出版情報：健康科学. 16, pp.99-104, 1994-03-15. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

日本と中国の大学生の精神的健康度の比較
「いきいき」健康調査表を用いて

山田裕章　冷川昭子　峰松修

A Comparative Study of Psychological Lively Activity on the University Students in Japan and China

Hiroaki YAMADA, Akiko HIYAKAWA, Osamu MINEMATSU

Summary

Psychological lively activity were evaluated by "Psychological Lively Scale" which was consisted of psychological positive and negative health scale. The positive health scale involves four subscales: positiveness, stability in mood, self-acceptance and life satisfaction. The negative health indicates psychological instability.

Comparative study of psychological lively activity were carried out on 174 students of Xinjiang Normal University(Xinjiang Autonomous Region, People's Republic of China) and 374 students of Kyusyu University. There was no differences between Japan and China in mean total score of positive health. In the subscale of positive health, total mean score of "self-acceptance" was higher in Chinese than Japanese and of "life satisfaction" was higher in Japanese students. In the negative health score, mean total score was higher in Japanese students than Chinese.

It was concluded that Japanese students were more nervous, instable, depressive and irritative than Chinese who were more positive, confident and stable in mood.

Key words : Psychological lively activity, University students, Comparison, Japan and China.

(Journal of Health Science, Kyushu University 16：99-104, 1994)

はじめに

近年わが国の国際交流はめざましく進展し，わが国から諸外国に留学する学生や，わが国に留学する学生は飛躍的に増加している。九州大学でも平成5年度の留学生数は600名を超え，その半数以上が中国を中心とするアジアからの留学生である。アジアからの留学生が増加するにつれて，それぞれの国の文化，風俗，習慣などの違いや，お互いに共通する点がわが国の人々に実感としてこれまで以上に明らかにされつつある。異なった環境で生まれ育った人間の考え方や感じ方の違いを，お互いに理解し合うくことが国際交流をより一層円滑に進める上では重要になっている。

九州大学は1986年に中国の新疆ウイグル自治地区の

Institute of Health Science, Kyushu University 11, Kasuga, Fukuoka 816, Japan.

新疆師範大学と学術交流協定を結び，少数民族についての文化人類学や生理人類学的調査の共同研究が進められている。本研究はわれわれが開発した「いきいき」健康調査表をもとに，日本とウイグルの大学生の精神的健康度を比較してお互いの理解を更に深める一助として行われた。

対象と方法

調査対象は中国の新疆ウイグル自治区のウイグル師範大学学生174名（男子85名，女子89名）と年齢をマッチさせた九州大学教養部学生310名（男子157名，女子153名）である。

「いきいき」健康調査表はPositive Health測定の20問とNegative Health測定の10問の合計30問から構成されている。Positive Healthは次の4個のカテゴリーに分けられる。

(1) 積極性

粘り強さ，困難なことに対する積極性，辛抱強さなどの特性。

(2) 安定性

気持の切り替えが上手で，気分転換が早く，気分が安定している。

(3) 自己肯定

自分自身に対する誇り，社会的役割に対する自己認識など。

(4) 充実性

精神的充実感，幸福感，満足感など。

Negative Health

不安，抑うつ気分，イライラ感，心気的訴え，強迫性など精神的不調。

調査方法は日本人学生には教室で調査表を記入させた。ウイグルの大学生に対しては，ウイグル師範大学の教官に依頼した。「いきいき」健康調査表の中国版は日本語に堪能な元九州大学留学生に依頼し，それを中国語に堪能な日本人に逆に翻訳を依頼し，中国版の調査表の正確さを期した。

結　果

1．全体の解析

日・中の大学生のいきいき健康調査表の得点はTable 1.に示されている。

Positive Healthの合計得点には日中間に差はなかったが，Negative Healthの合計得点に有意差があり，日本人学生に精神的不安定の程度が高い。

Table 1. Mean Score of Positive and Negative Health

Nationality	Japan	China
Total Positive Health	52.1±7.6	53.5±7.4
male	51.5±7.9	54.8±6.7
female	52.9±7.3	52.2±7.9
Total Negative Health	20.5±3.6＊	19.0±2.9
male	20.6±3.6＊	18.8±3.0
female	20.5±3.6	19.1±2.9

(＊…P<0.01)

2．カテゴリー別の解析

質問項目30問の内Positive Healthは20問，Negative Healthが10問で，Positive Healthは4カテゴリー，Negative Healthは1カテゴリーに分けられる。それぞれのカテゴリー別の得点を日中両国の学生の回答で比較した。

Positive Health

(1) 積極性

カテゴリー別得点の平均は，日本人13.0，中国人13.5で全体から見れば両国の学生間に差がない。

(2) 安定性

得点の平均は，日本人12.4，中国人12.8で両国学生間に差がない。

(3) 自己受容

得点の平均は日本人12.6，中国人14.3で中国人学生の方が有意に高い($p<0.01$)。

(4) 充実性

得点の平均は日本人14.1に対して中国人12.9で日本人学生の方が充実性が有意に高い($p<0.01$)。

Negative Health

精神的な不安定さは不安，抑うつ気分，イライラ感，などで示されるが，Negative Healthのカテゴリーでは質問27および28の心気性の項目を除く項目すべてに日中学生の間に差があり，日本人学生のほうが有意に高い($P<0.01$)。

3．項目別の解析

「いきいき健康調査表」の質問に対する回答は，4個の選択肢から1個を選択する方式であるが，結果のまとめは質問に対する肯定的回答（回答③，④）と否定的回答（回答①，②）に二分し，肯定的回答について解析した。30項目の質問の肯定的回答の比率をTable 2.に示す。

Table 2. Proportion of affarmative answers by nationality and gender

「いきいき」健康調査表 肯定回答者数比率の日中比較	中国人			日本人		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
1．自分からあいさつ	60.0%	64.7%	55.1%	60.3%	52.2%	68.6%
2．考える前に行動	15.4%	12.9%	18.0%	27.7%*	30.6%	24.8%
3．好奇心がある	80.6%	80.0%	80.9%	76.5%	78.3%	74.5%
4．ねばり強く解決	70.9%*	80.0%	61.8%	51.9%	46.5%	57.5%
5．不運に立ち向かう	71.4%*	78.8%	64.0%	53.6%	51.0%	56.2%
6．翌日はさっぱり	44.6%	47.1%	41.6%	55.2%	55.4%	54.9%
7．気分の転換が早い	55.4%	62.4%	48.3%	49.7%	47.1%	52.3%
8．自分の気持は安定	62.3%	63.5%	60.7%	47.7%	49.7%	45.8%
9．出来ないことは	44.6%	47.1%	42.7%	41.0%	42.7%	39.2%
10．過去は過去	63.4%*	68.2%	58.4%	41.0%	41.4%	40.5%
11．自分客観的に評価	73.1%*	72.9%	73.0%	57.1%	61.8%	52.3%
12．異なった意見でも	70.3%	75.3%	65.2%	69.4%	68.2%	70.6%
13．批判されても自信	72.6%*	85.9%	59.6%	39.7%	53.5%	25.5%
14．社会の役に立って	65.7%*	67.1%	64.0%	25.5%	27.4%	23.5%
15．自分の生き方納得	57.7%	56.5%	58.4%	67.4%	57.3%	77.8%
16．他人に対して誇り	44.0%	42.4%	44.9%	52.3%	47.8%	56.9%
17．今の生活に満足	35.4%	41.2%	30.3%	68.4%*	61.2%	75.8%
18．毎日を楽しく生活	80.0%	82.4%	77.5%	81.0%	74.5%	87.6%
19．今「幸福である」	64.6%	63.5%	66.3%	78.4%*	68.8%	88.2%
20．精神的に豊か	60.0%	55.3%	64.0%	64.2%	56.1%	72.6%
21．なんとなく不安に	13.7%	20.0%	7.9%	23.2%*	22.9%	23.5%
22．過敏で神経質な	2.9%	3.5%	2.3%	22.3%*	24.2%	20.3%
23．ゆううつな気分に	8.6%	7.1%	10.1%	20.3%*	21.7%	19.0%
24．晴れ晴れとしない	10.9%	10.6%	11.2%	18.1%*	18.5%	17.7%
25．イライラする	9.7%	11.8%	7.9%	21.0%*	24.2%	17.7%
26．気持がソワソワ	4.0%	3.5%	4.5%	13.6%*	18.5%	8.5%
27．あちこち調子悪く	7.4%	4.7%	10.1%	14.2%*	13.4%	15.0%
28．軽い病気でも病院	1.1%	1.2%	1.1%	3.2%	2.6%	3.9%
29．何事も完ぺきに	65.7%*	63.5%	67.4%	52.9%	53.5%	52.3%
30．今日やるべきこと	73.1%*	69.4%	76.4%	47.4%	38.9%	56.9%

＊……$P<0.01$

個々の質問に対する学生の反応を日本人と中国人のグループで見ると次のようになる。

各質問項目についての解析(Fig.1)

日本人と中国人の回答に有意差($p<0.01$)があるのは次の項目である。

質問2「何かをするときは，あれこれ考える前に行動する」この質問に肯定的に答えたのは，日本人全体の27.7%，中国人の15.4%であり，日本人学生の肯定的回答が高い。しかし，逆に言えば日本人の約73%，中国人の85%はこのような行動を否定的に考えていることになる。

質問4「困った状況の中でも，粘り強く解決しようとする」肯定的回答は日本人の51.9%，中国人の70.9%で，中国人のほうがねばり強い。両国の学生間に顕著な差がみられるのは男子学生の反応で，肯定的意見は日本人の46.5%に対して中国人は80.0%であった。

質問5「たとえ不運なことに見舞われても，立ち向か

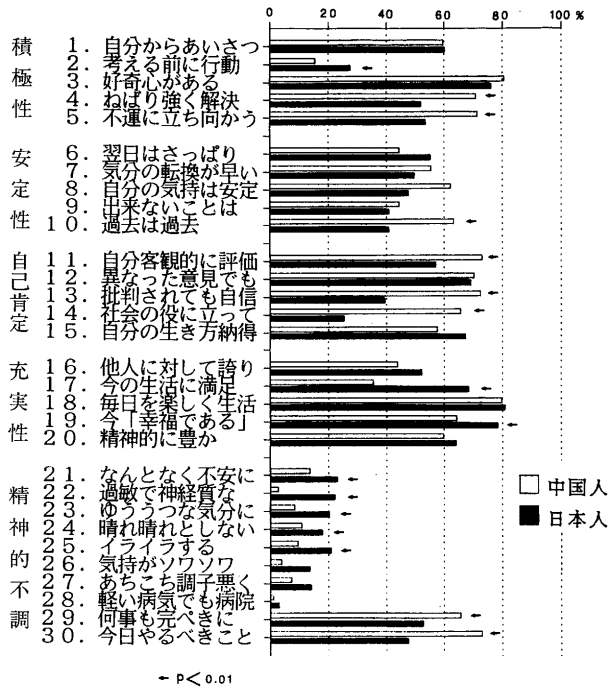

Fig 1. comparison of each items by Japanese and chinese

って行けると思う」日本人の肯定的回答は53.6%に対して中国人は71.4%であった。この中で，男子学生の肯定的回答は日本人51.0%，中国人78.8%で，中国人男子学生の肯定意見が高い。

質問10「『過去は過去』と割り切ってこだわらない」肯定的回答は日本人の41.0%，中国人の63.4%で中国人学生に肯定意見が高い。

質問11「自分の美点も弱点も，客観的に評価することが出来る。」この質問の肯定的回答は日本人の57.1%，中国人の73.1%で中国人に肯定的意見が多い。。

質問13「少しぐらい批判されても自信を失わない」肯定的回答は，日本人の39.7%，中国人の72.6%であり，中国人に肯定的意見が多い。また男子学生と女子学生の回答に差があり，女子学生に否定的な意見が多い。「自信を失わない」と答えたのは日本人女子学生の25.5%に対して中国人女子学生は59.6%であった。

質問14「私は社会の役に立っていると思う」肯定的回答は日本人の25.5%，中国人の65.7%であり，学生が社会の役に立っているという意識は中国人に高い。

質問17「私は今の生活に満足している」の肯定的回答は日本人の68.4%に対して中国人は35.4%であり日本人の満足度が高い。

質問19「今，『幸福である』と思う」肯定的回答は日本人の78.4%，中国人の64.6%で幸福感は日本人に高い。日本人学生の中でも性差があり，幸福感は男子学生の68.8%に対して女子学生は88.2%で，日本人女子学生の方が幸福感が高い。

Negative Health の項目にも日中間の学生では差異がみられる。

質問21「なんとなく不安になることがある」この質問から Negative Health の項目である。肯定的回答は日本人の23.2%，中国人の13.7%であり，日本人に不安感が高い者が多い。しかし，男子学生だけを比較すると，日本人の23.0%に対して中国人は20.0%であり，不安感は男子学生に限って両国間に差がない。

質問22「過敏で神経質な気持になることがある」の肯定的回答は日本人の22.3%に対して中国人は2.9%であり，顕著な差がある。

質問23「ゆううつな気分になることがある」の肯定的回答は日本人の20.3%に対して中国人は8.6%であった。

質問24「気分が晴れ晴れとしないことがある」の肯定的回答は日本人の18.1%に対して中国人は10.9%であった。質問23,24を合わせると抑うつ的な気分は日本人

学生に高かった。

質問25「イライラすることがある」は日本人の21.0%が肯定的回答であるが中国人は9.7%であった。

質問26「気持がソワソワして落ちつかないことがある」の肯定的回答は日本人の13.6%，中国人の4.0%であった。気持がイライラしたり，ソワソワする感じも日本人学生に高かった。

質問29「何事も完ぺきにしないと気がすまない」の肯定的回答は日本人の52.9%に対して中国人は65.7%であった。

質問30「今日やるべきことは今日の内にかたずけないと気がすまない」の肯定的回答は日本人の47.7%に対して中国人は73.1%であり，中国人の方が高い。質問29と30を合わせると，中国人学生の方が完璧性や強迫性が高かった。

考　察

いきいき健康調査表[5]は，個人の積極的でいきいきとした状態を精神的健康度の一つの指標としてみたものである。日本と中国の大学生のいきいき度(Positive Health)は総合的な得点だけを見ると日中の学生に差がない。カテゴリー別で見ると，「自己受容」は中国人の得点が高い。その中の項目では自己の客観視，自信，社会的役割などの項目は中国人の得点が高く，いわゆるプライドの高さが示されている。それは大学進学率が35%を超えている日本と10%台の中国との相違であろう。中国の大学生は現在もエリートなのである。また，「積極性」のカテゴリーで質問4．「困った状況の中でも，ねばり強く解決しようとする。質問5．「たとえ不運なことに見舞われても，立ち向かって行けると思う」などの項目は中国人の得点が高く，厳しい人生の中での前向きの姿勢や積極性が日本人学生に比べて強いことが示されている。このように中国人学生の前向きで，人生に対して積極的な態度は，現在中国がおかれている世界的な立場に関連していると思われる。丁度30年前の日本の青年達が持っていた価値観に近い。

気分の安定性に関しては日中間に大きな差はない。ただ気分転換の早さや，気持の割りきり方は中国人の方が肯定意見が多い。

自己受容のカテゴリーでは「自分自身を客観的に評価出来るか」という質問に肯定的回答をしたのは中国人学生の73.1%であり，「少しぐらい批判されても自信を失わない」のも72.6%で日本人学生よりも安定している。また社会の中の自分に対しても確固たる位置づけを持ち，「自分は社会の役に立っている」という自信感は日本人学生の2倍以上（65.7%）の肯定回答である。しかし，このように自己確信を持つかに見える中国人学生は，自分の生き方には必ずしも納得している（57.7%）わけではない。

「充実性」のカテゴリーは満足感や幸福感を問うているが，生活の満足度や幸福感は日本人学生が高い。国民生活選好度調査[2]によれば，「生活全般に満足しているか」の質問に満足しているが17.6%，どちらかといえば満足しているが41.1%で生活の満足度の肯定的意見は58.7%であった。これを見ると九大学生の満足度はかなり高いことがわかる。しかし，「精神的に豊かな生活」は日中双方とも同じ比率（日本人64.2%，中国人60.0%）であり，中国人学生は生活には満足ではないが，社会的に支持され，将来に希望を持って精神的には満足した生活を過ごしている人々が多いことを示している。

日本人の「幸福感」は成人の調査[5]でも全体の肯定的回答は88.3%である。日本人学生の肯定的回答も78.4%に達し，中国人学生の64.6%に比べるとかなり高い。

世界青年意識調査[4]によれば，「幸福だ」と答えた者は日本青年の30.8%，中国青年の17.4%であり，「どちらかといえば幸福だ」の回答を合わせると，日本青年は87.2%，中国青年は73.3%であった。これはアメリカの94.7%，イギリスの92.2%，フランスの94.1%に比べると日本や中国の青年の幸福感は低いことが注目されている。本研究では「いま，幸福であると思う」の質問に「非常にそう思う」と強い肯定の回答をしたものは，日本人学生の30.0%(男性18.5%，女性41.8%)である。ウイグルの大学生では同様な回答であった者は，全体の22.4%（男子27.4%，女子18.0%）であった。世界青年意識調査と同様の結果が日本青年に見られたが，中国の青年の意識調査の結果はウイグルの大学生の方がやや高い。これは調査対象の違いによるものであろう。1990年5月，朝日新聞が発表した北京大学の学生に対する意識調査によれば，「何をやても力が入らない」が約30%，「国を出ることだけが望み」が約10%，「抑圧されて苦しんでいる」が約20%であり，中国最高学府の80%以上のエリートが無気力の状態に落ち込んでいたという。千石ら[3]は，現在の中国の若者は典型的なアノミー状態にあると結論している。本研究の対象者はウイグル師範大学の学生である。新疆ウイグル自治区は中国の西北に位置し，旧ソビエトやアフガニスタン，パキスタンに国境を接したいわば辺境の土地である。ここに住む学生は北京大学の学生と異なり，政治についての情報や体制批判は少なく，将来は

教育者になるという素朴な希望を持って勉強しているようである。

Negative Healthは精神的な不安定さを示すが，日本人学生は10項目中8項目が中国人学生に比べて有意に高く，顕著な差がある。質問22「過敏で神経質な気持になることがある」では肯定的回答は中国人学生全体で2.9%，日本人学生は22.3%であり，日本人学生は中国人の7倍以上も高い。男子学生だけを比較すると中国人は3.5%，日本人は24.2%であり，その差は8倍に達する。前述のように「幸福感」が高ければ逆に不安も高まるのかもしれない。ここで，この調査表から得られた結果をもとにして日中の大学生の特徴をあげると次のようになる。

日本人学生

情緒的に安定していない者が多く，自信に乏しい。あまり積極的ではなく，自分が厳しい状況に立たされたとき，粘り強く立ち向かう意志が弱い。現実の日常生活に対する満足度は高く，同時に幸福感も高いが，社会的な安定感に乏しい。女子学生は男子学生に比べて，より積極的でプライドも高い。Negative Healthとして不安，抑うつ，焦燥感，心気性などの好ましくない傾向をもつ者が多く，このため情緒的な不安定さや自信のなさを生み出している。

中国人学生

情緒的には安定している。非常に積極的で，厳しい困難な状況にも乗り越えようとする明確な意志が強い。これはまた自分が社会の一員であり，社会の役に立っているという自信にもつながる。現実生活の満足度は低いが，それなりに楽しく暮し，幸福と感じているものが過半数を超える。精神的豊かさについては満足している。Negative Healthは小さく，神経症的傾向はない。非常に「タフ」といった印象である。

Negative Healthで示される特徴は，一面では自律神経系の不安定さを示している。藤野ら[1]は新疆ウイグル自治区の少数民族の青年の心電図を測定し，左室電位(SV1+RV5)はウイグル族が最も低く，日本人は最も高かった。またいずれの民族でも収縮期血圧の高い者ほど左室電位が高いことから，左室電位と自律神経ホルモンとの関係を考察し，左室電位の高値はカテコールアミンの分泌量が多いか，カテコールアミンに対する感受性が高いかを示し，日本人の緊張の高さはこれらのホルモン応答特性に関連しているのではないかという。本研究で明らかになったウイグルの大学生のNegative Healthの低値－自律神経系の安定性－は前記のような生理的基盤のあることが示唆される。

この調査はウイグル師範大学の教官に依頼して行ったものである。学生の身になればいわゆる国際的比較ということで，ある種の身構えがあり，それが望ましいとされる回答へ無意識に誘導されたかも知れない。しかし，質問項目を細かく分析してみると正直に答えていることがわかる。質問17「私は今の生活に満足している」の肯定意見は35.4%に過ぎない。全体の約65%はあまり満足していないということが明かである。これは極めて率直な意見であり，この回答の傾向から中国人学生の回答にある種のバイアスがかかっているとは考えにくい。

まとめ

中国ウイグル自治区の新疆師範大学学生と九州大学学生の精神的健康度を「いきいき健康調査表」によって比較した。Positive Healthは「積極性」，「気分の安定性」，「自己受容」，「生活の充実性」の4カテゴリーで測定した。Positive Healthの合計得点は日・中の学生間に差はなかった。Negative Healthは精神的な不安定さを示すが，日本人学生は中国人学生に比べて得点が高く，精神的に不安定であった。双方の学生の特徴は次の通りである。

日本人学生は情緒的に不安定な者が多く，自信がなく，あまり積極的ではない。現実の日常生活の中での満足感や幸福感が高い反面，社会とのつながりが希薄で頼りない存在である。これに比べて中国人学生は情緒的に安定し，非常に積極的で厳しい困難な状況を乗り越えようとする強い意志がある。現実の生活には満足していないが，それなりに楽しく生活し，精神的に豊かな生き方をしている。

文献

1）藤野武彦：新疆の医学・人類学，権藤与志夫編著，ウイグル，朝日選書，朝日新聞社，244-274，1991.
2）経済企画庁国民生活局編：国民生活選好度　調査，1-169，1993.
3）千石　保，丁　謙：中国人の価値観，サイマル出版会，197-207，1992.
4）総務庁青少年対策本部編：世界青年意識調査（第4回）報告書：大蔵省印刷局，118，1989.
5）山田裕章，冷川昭子，峰松　修：「いきいき健康調査表」の試み，健康科学，16：99-104，1994.